

# 日本大学をつけた 先人たち [番外編]



法律学校に於いては、我が日本人民が日本人民として先づ第一番に知らなければならぬ法律を教えるといふ旨趣で御坐います。即ち日本人民の第一に知らなければならぬ言葉は、日本の言葉であります。其れと同じことで、日本人民が第一に知らなければならぬ法律は、日本の法律であります。この日本法律を専修する所として、日本法律学校を立てたので御坐います。

日本法律学校の創立に力を注いだ宮崎は、明治23年10月に幹事に就任し、同26年9月まで学校運営にあたっています。



韓国ソウル 明治36年  
前列左から6人目が宮崎(宮崎家所蔵)

## 「日本法制史学」の確立

宮崎は、多くの文献を読み込んだ丁寧な実証による研究を行いました。明治30年頃からは、日本の法制に影響を与えた中国の法制との比較研究に着手し、その後、東洋言語の比較検討による研究方法によって、日韓両語の比較研究を始めました。明治36年8月にはこれに関する資料を蒐集するために韓国に赴いています。この研究方法は満州語・蒙古語にまで及び、俗事を避けて毎日大学の図書館に閉じこもり研究を続け、その熱心さは「学界の仙人」と噂される程でした。また、近代的な法制史の確立に多大な貢献をし、「日本法制史研究の鼻祖」といわれています。

明治24年に法学博士を授与され、明治31年には東京学士会院会員に選出されています。大正11年(1922)に東京帝国大学を退官し、昭和3年(1928)4月に74歳で逝去しました。

(大学史編纂課・小松修)

- 参考文献
- ・『日本大学百年史』第1巻
  - ・柏村哲博「設立者総代宮崎道三郎の生涯」(『日本大学史紀要』創刊号)
  - ・長尾龍一「宮崎道三郎の法史学」(『日本大学史紀要』第10号)

## 地元のNPO法人 「花の会」の主催で

風折烏帽子 腰蓑着けて  
清き心の長良川  
流れ尽させぬ幾千代かけて  
君に捧げん鮎の魚  
船端叩いて ホッホッホッ



松畔楼で披露された「かざをりゑぼし」の舞

学祖・山田顕義(1844~1892)伯が作って、今も岐阜で歌い継がれる小唄「かざをりゑぼし」。そのきっかけとなった山田伯の岐阜訪問120年を記念して、地元のNPO法人が10月2日にその舟遊び模様を再現し、市

## 学祖の岐阜訪問 120年を記念して 舞や舟遊びなどの イベントを開催

民・観光客が鶴飼の風情と併せて、明治の元勳に連なる学祖の「小粋な文化人としての一面に親しんだ。明治23年(1890)9月7日

に鶴飼観覧の舟遊びを楽しんだ山田伯と小唄の関係は、芸妓から茶屋の女将時代に交流が深かった加

藤ひな(1857~1909)が山田伯をしのいで建立し、今も東京・葛飾区の浄光寺境内に残る小唄の歌碑が伝える(前ページコラム参照)。

おりから岐阜市歴史博物館では、歌碑建立の直後にとられ



山田伯も風情を楽しんだ鶴飼観覧



芸妓の踊りが華やぐ舟遊び風景

## 学祖作の小唄の碑が残る 天台宗の古刹

学祖ゆかりの地  
「浄光寺」(東京都葛飾区)

京成押上線の四ツ木駅から10分少々歩いた川沿いにある天台宗の古刹、浄光寺。その境内の一角に、学祖・山田顕義作の小唄「かざをりゑぼし(風折烏帽子)」の碑があります。かざをりゑぼしは鶴飼の際に鶴飼がかかる烏帽子で、山田は長良川での舟遊びの情景をもとに小唄をつくったと伝えられています。

碑は、山田が生野銀山で死去した翌々年の明治27(1892)年に、生前山田と親交があった加藤ひならによって建立されたものです。加藤ひなは、山田がよく利用した待合茶屋の女将で、後に東京女優養成所の副所長(所長は川上貞奴)となり多くの女優を育てました。

山田の小唄の碑の隣には、川上貞奴らを発起人とする加藤ひなの顕彰碑が立っています。寺の移転に伴い長らく離れ離れになっていたものを、日本大学創立100周年記念事業の一環として昭和63年に並置されました。



浄光寺の境内に立つ「風折烏帽子」の碑。  
葛飾区の有形民俗文化財に指定されている



小唄誕生の秘話も含めて、映像製作が進む

時の鶴飼に贈られた拓本も展示され、宮内庁所属下で120年続く「鶴飼」の変遷を紹介中。一方で、山田伯が立ち寄った料理屋「松畔楼」の今も残る建物で「かざをりゑぼし」の舞が披露された後、史実通りに鶴飼観覧の舟遊びに繰り出した。

顕彰事業を主導するNPO法人「花の会」(柴田千鶴子理事長)は、小唄そのものの歌碑を長良川河畔にも建立する運動を展開。また現役芸妓である吟日乃(きくの)さんが加藤ひな役を演じるなど地元ボランティアが参加して、2人の交流を含めた小唄誕生の記録映像の製作を進めている。